



Happy & Safety プロジェクトって？

高齢者にお菓子入りの巾着を配り、避難した高齢者が子どもに巾着に入っているお菓子をあげる。お菓子をもらった子どもたちが Happy (幸せ)、避難した高齢者は Safety (安全) になるプロジェクト。



吉里吉里学園避難所運営訓練の様子

「もしも」は突然に 身近で持続可能な備え

11月29日(土)には、おしゃっちを会場に「ぼうさいフェスタ2025」が開催されました。消防車や自衛隊車両、シヨベルカーなど災害や緊急時に活躍する車両の見学や乗車体験、また災害救助犬の訓練など、家族で楽しみながら防災の知識や意識を身に付けるイベントとして毎年行われています。本年度は、「自助」共助」のさらなる強化のため、身近で

できる持続可能な防災対策をテーマとした企画が、地域団体と協力のもと実施されました。

「食と防災」をテーマとした家庭向け企画では、大槌町食生活改善協議会が、保存食品を上手に使った普段の食事にも使えるレシピを紹介し、ポリ袋調理をしたメニューの試食を提供しました。同協議会では、防災や非常時を想定した食事についての研修を各地域で行っています。試食した皆さんは、ポリ袋で炊いたご飯や乾物を使ったサラダのおいしさに

繋がる「自助」強まる「共助」

防災には、避難行動や備蓄、ハザードマップの確認などの「自助」、地域にいる人同士が助け合って避難や訓練などを行う「共助」、町などが災害対策を行なう「公助」の3つがあり、これらが連携することで被害を大きく軽減することができます。地域や学校では、住民がそれぞれをよく理解し、より連携を深めようとする取り組みが行われています。

お互いの備えを「知る」 合同訓練で連携強化へ

毎年11月に行われる大槌町津波避難訓練。令和7年度は岩手県、釜石市と合同による岩手県総合防災訓練として11月8日(土)に実施されました。全地区一斉の避難訓練は中止となりましたが、大槌会場では吉里吉里学園の生徒を中心とした避難所運営訓練、金沢地区体育館でのペット同行避難訓練などのほか、各会場で電気や燃料、電話通信の関係機関や盛岡地方気象台などが復旧支援の訓練や防災学習のための展示を行いました。

吉里吉里学園では生徒たちだけで避難所を運営。受付や巡視、救護、環境管理や要望対応など、次々に訪れる問題に四苦八苦しながらも協力して対応しました。地域から避難者役兼指導役として参加した藤本俊明さんは「生徒たちみんなが自分から避難者に声をかけ、気の利いた対応



生徒による避難所運営訓練は大槌学園でも地域住民を交えて実施

驚き、保存がきく食材などについて熱心に質問していました。別ブースでは大槌高校2年の関谷璃美さんが、高齢者の避難行動を促す巾着袋のプレゼントや、身の回り

にあるもので作るアイデア防災グッズなどを紹介し、小中学生などが真剣に聞き入る姿が見られました。約100個用意された巾着袋は、地域団体「おおつちおばちゃんくらぶ」の協力で制作され、高校生と地域の協働プロジェクトとなりました。そのほか大槌商工会と連携し企業

向けに事業継続セミナーを開催。企業としての備えや企業間連携について学びました。

総合訓練や防災フェスタを通じて、個人、団体、地域それぞれの取り組みの目的や重要性を知ること、それらが密接に関わり合い、「自助」「共助」「公助」のどれか一つが欠けても地域防災は成り立たないことが分かります。日ごろからの備えや、災害時にどう動くかなど、お互いに理解を深めることが、わたしたちの防災力強化につながっていきます。

大ケ口地区津波避難施設 住民説明を行います

町は大ケ口地区の津波浸水想定区域外に、新たな緊急避難場所の整備を進めています。令和8年度の工事着手に向け、地区住民の皆さんへの説明会を下記のとおり行います。

- 日時 3月29日(日)
10:00～11:00
- 場所 大槌町多目的集会所
(大ケ口集会所)
- 内容 ・整備内容
・スケジュール



防災対策課 TEL 0193-42-8781